



平成14年入所時

京都市未来こどもはぐくみプラン

弁護士 小原 路絵



1 「京都市未来こどもはぐくみプラン」が平成27年1月に策定されました。平成27年から平成31年までの5年間の京都市の子育て支援施策の総合計画になります。

私は、このプラン策定に関して、京都市子ども子育て会議の特別委員として関わらせて頂きましたので、その中身を紹介させて頂きたいと思います。

2 このプランは、平成22年から平成26年までの計画であった「京都市未来こどもプラン」の後継にあたります。

まず、このプランの基本理念として、平成19年に京都市が定めた、下記「子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都はぐくみ憲章）」があります。

(前文)

わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを大切に、子どもを健やかで心豊かに育む社会を築くことは、京都市民の使命です。

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切に、子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが求められます。そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。

(行動理念)

わたくしたちは、

- ・子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- ・子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- ・子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- ・子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- ・子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- ・子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

そしてこのプランは、上記京都はぐくみ憲章の理念に基づき、目指すまちのすがたとして、以下の5つを定めています。

- ①子どもを社会の宝として、子どもの最善の利益を追求するまち
- ②「真のワーク・ライフ・バランス」が息づき、男女が子育てを共に担う

てを共に担う主役として、安心して子どもを生み育てることのできるまち

- ③「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和の取れた育成を図り、子どもたちがたくましく未来を切り開くことのできるまち

- ④家庭・地域・育ち学ぶ施設・企業・行政など社会のあらゆる場で、市民みんなが子どもの育ちと子育てを支え合い応援するまち

- ⑤子どもが喜びの中で生まれ育ち、みんなが子育てに夢を持つことのできるまち

3 このプランの内容としては、「京都市子ども・子育て支援事業計画」、「京都市母子保健計画」、「京都市放課後子ども総合プラン」、「京都市家庭的養護推進計画」、「京都市ひとり親家庭自立促進計画」が一体的に盛り込まれています。具体的には、子育て家庭の支援に関するものや、幼児教育・保育の提供体制の確保及び質の向上に関するものなど、個別の施策は228個にも及んでいます。子どもが生まれる前からの少子化対策に始まり、幼児教育、保育、放課後の子どもたちの居場所、障害のある子どもの教育の充実、虐待対策、非行対策、ひとり親家庭の支援など、子どもを取り巻く問題を網羅的にきめ細かく考えられている施策だと思っています。

4 このプラン策定までには、部会に分かれて、何度も会議が開かれました。様々な立場の方が、よりよいプラン作りのために、真剣に議論を重ねました。

その中で印象深かったのは、地域による子育てを活性化していくという視点でした。確かに、昔は、家庭だけでなく、地域で子育てを行っているといえる面も多々ありましたが、現在では、地域の共同関係の希薄化の中、地域での子育てという考え方自体、あまり一般的でなくなっているように思います。確かに、少子化の進行や子どもの生活環境の変化など、現代の子どもを取り巻く環境は大きく変わりました。しかし、京都市は地藏盆の伝統や全国に先駆けた小学校の創設など、古くから地域を基盤とした子育てや人づくりの文化があります。そうした京都市の伝統を活かし、地域を活性化することで、子どもや子育てに資することになると思います。

このプランは、京都市の行動計画であるだけでなく、市民一人一人の行動規範にもなるものです。全部の内容を知るには結構なボリュームがありますが、京都市のホームページから、概要版も見ることができます。このプランは、今後5カ年の京都市の方針を決めるものとなります。最近、京都市は、歴史的な街並みなど、観光の面で取り上げられることが多いように思いますが、ぜひこのプランを、市民もしっかり認識して、推進していくことで、京都市を子育てのしやすいまちにしていけたらと思います。